

初段

硬筆検定試験問題 (60分) (第106回 令和5・7)

※各問の出典の記入は自由とする。

問一 次の文字を、楷書・行書の二体で書きなさい。

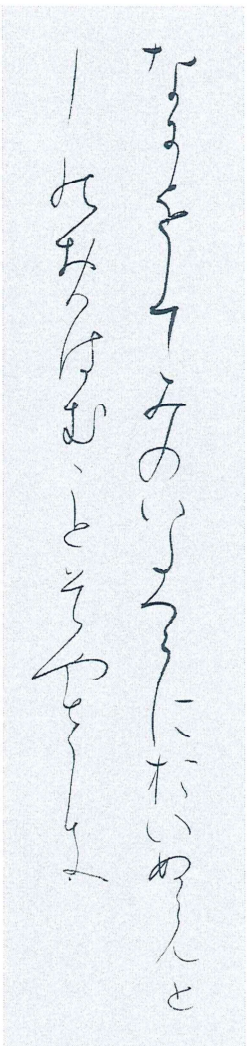
四海生春風

問二 次の『曹全碑』を、解答欄の大きさにあわせて調和よく臨書しなさい。



(收養季祖母)

問三 次の『高野切第三種』を、解答欄の大きさにあわせて調和よく臨書しなさい。



(な尔を多してみの於いたづら能にぬらんとしのおもはむことぞやさしき支)

問四 次の文章を、漢字は行書、または草書で、調和よく書きなさい。

彼等は、言われた通りに振り返って、先ほどの林間の草地を眺めた。たちまち、一匹の虎が草の茂みから道の上に躍り出たのを彼等は見た。虎は、既に白く光を失った月を仰いで、二声三声咆哮したかと思うと、また、元の叢に躍り入って、再びその姿を見なかった。

(中島敦「山月記」より)

問五 次の  内の揭示文を問五解答用紙に、位置・文字の大きさを考えて、フ・ェ・ル・ト・ペンか、筆・ペンで書きなさい。(縦・横自由、数字は算用数字・漢数字どちらでもよい)

- 期日 令和五年十二月十五日(金)
- 会場 都城市総合文化ホール
- 第五回 国際交流体験発表大会
- 主催 宮崎県高等学校文化連盟
- 後援 宮崎県教育委員会